

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和2年8月26日発行

With コロナ を考える

校 長 齋 藤 光 夫

いつもの年より早く2学期の始まりを迎えました。この学校だよりは、年度当初は予定していませんでしたが、24日からの開始を受け、臨時号をお届けすることにしました。

2学期は、延期していた運動会や6年生の会津若松への修学旅行、そして、文化祭等、「新しい生活様式」を意識した中で可能な方法を見付け出し、実施していく予定です。

始業式では、子どもたちに心の中のものさしについて話をしました。自分の尺度と相手の尺度は違うことや、相手の立場にはそれを支えているものがあり、それは草花の根のように見えないが大切であることなど、相田みつをさんの言葉を添えて、相手を思いやれるものさし（見方・考え方）をもってほしいと話しました。

ここでは、この話を世界で起きているコロナ問題と結び付けてみます。これまでも幾度となく話題にしてきましたが、コロナ問題の一番恐ろしいことは、ウイルスそのものよりも、人を偏見の目で見てしまうという自己中心的なものさしが使われることです。

「With コロナ（コロナとうまく付き合う）」は、これからも続きます。

学校では、「感染予防」と併せて「感染拡大防止」の意識を大切にしています。

感染予防は、「感染しない」という、自分への感染を防ぐ意味合いが強い言葉だと感じています。しかし、この意識は強くなりすぎて暴走してしまうと、感染者への警戒心や拒絶意識を生み、差別的な見方、コロナいじめへとつながります。

一方、感染拡大防止は、「感染を広げない」という、周囲を思いやる意味合いが強い言葉と言えます。症状のある方が行動を自粛することはもちろんですが、発熱もなく無症状なのにPCR検査で陽性となる報告の事実がある以上、自分も感染しているかもしれないという心構えで感染を広げない生活を心がけることは大切です。この見方・考え方（ものさし）は、感染者や医療関係者を思いやる、互いに支え合う意識につながります。

今後も、市内での感染が発生しないことを願っていますが、ご家庭においても、お子さんの感染防止とともに、家族の意識に「感染拡大防止」という視点を加え、子どもたちの安全・安心な学校生活に向け、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※裏面に文部科学大臣からのメッセージを印刷しました。